

小児看護学演習

[演習] 1年 後期 選択 30時間 2単位

《担当者名》木浪智佳子[kinami@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

本講義では、まず子どもと家族に関する保健・医療・福祉・教育制度と政策の変遷や課題を学び、看護職として制度・政策をどのように活用できるか検討する。また、小児看護学特論での学習を発展させ、文献抄読や臨地実習で体験した事例の検討により、小児看護領域におけるアセスメント、専門的看護援助の方法を学ぶ。さらに、親子の関係性の発達や、親子相互作用について学び、演習を通して、親子相互作用のアセスメント能力を養う。

【学修目標】

わが国の子どもと家族に関する制度や政策の現状を理解し、小児看護実践への活用について考えることができる。
親子相互作用のアセスメントの方法を理解できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 4	子どもと家族に関する保健・医療・福祉・教育の制度と政策	わが国の子どもと家族に関する保健・医療・福祉・教育の制度と政策の変遷を概観する	木浪
5	在宅医療を必要とする子どものための医療・福祉制度の現状と課題	在宅医療を必要とする子どものための医療・福祉制度の現状を把握し、子どもと家族の健康を支えるために解決すべき課題について、ディスカッションを行う	木浪
6	子どもと家族のヘルスプロモーションを支える母子保健対策の現状と課題	ある特定の地域に焦点を当て、子どもと家族のヘルスプロモーションを支える母子保健対策の現状を把握し、取り組むべき課題について、ディスカッションを行う	木浪
7	子どもと家族に関する保健・医療・福祉・教育の制度と看護援助への活用	子どもと家族に関する保健・医療・福祉・教育の制度の現状と課題を踏まえ、看護職の立場から、実践可能な援助を検討する	木浪
8	親子の関係性と親子相互作用	親子の相互作用理論（バーナード・モデル）を理解する	木浪
9) 10	親子相互作用のアセスメントの実際	バーナードが開発した親子相互作用のアセスメントツールをもとに、子どものCueや親の関わりを観察する視点を学ぶ	木浪
11) 15	親子相互作用のアセスメントと看護	動画を視聴、親子相互作用のアセスメントを行う。アセスメントおよびその結果を踏まえた看護援助についてプレゼンテーションし、全員でディスカッションを行う	木浪

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

プレゼンテーション（30%）、ディスカッション（30%）、課題レポート（40%）で評価する。

【教科書】

随時提示する。

【学修の準備】

指定された事前学習の課題を実施する。または指定された文献を読む。

(2026年度・大学院 看護福祉学研究科)

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。